

初の観光ツアー好評

旧浦島小 校舎を活用 震災語り部や養殖体験



住民から震災当時の状況を聞く参加者（旧浦島小）

昨春閉校した気仙沼市の旧浦島小学校校舎を活用し、地域の魅力を発信する初の観光ツアーが22、23の両日、浦島地区で行われた。震災の語り部や養殖体験などを組み合わせた内容は観光客からも好評で、企画した住民たちは「今後のまちおこしの弾みになる」と手応えをつかんだ。

「週末は気仙沼。海のしごと人に出逢う旅」と題した1泊2日のツアーには、首都圏や関西から10人が参加。初日は、地区内のワカメ加工場を見学し、震災時に避難所だった旧浦島小の教室で語り部の話に耳を傾けた。

浦島地区振興会の尾形三郎事務局長が、震災翌日に綴った手書きのメモを参加者に見せながら、約1カ月半の避難所生活を紹介。尾形事務局長は「住民みんなが身内のよう

な存在だった」と、宿に宿泊。翌日は鶴ケが浦、梶ヶ浦でワカメの刈り取りやカキむき作業などを体験した。東都杉並区から参加した主婦梅田由紀子さん（51）は「当時、この校舎が避難所だったと思うと感慨深い。住民の皆さんが温かく迎えてくれてうれし

い」と感想を話した。一行は唐桑町内の民

企画した同振興会の小野寺光一会長は「初の試みだったが、震災後の地域おこしの第一歩になった。郷土料理を学ぶ料理教室などもツアーに取り入れ、内容を充実させていきたい」と話している。